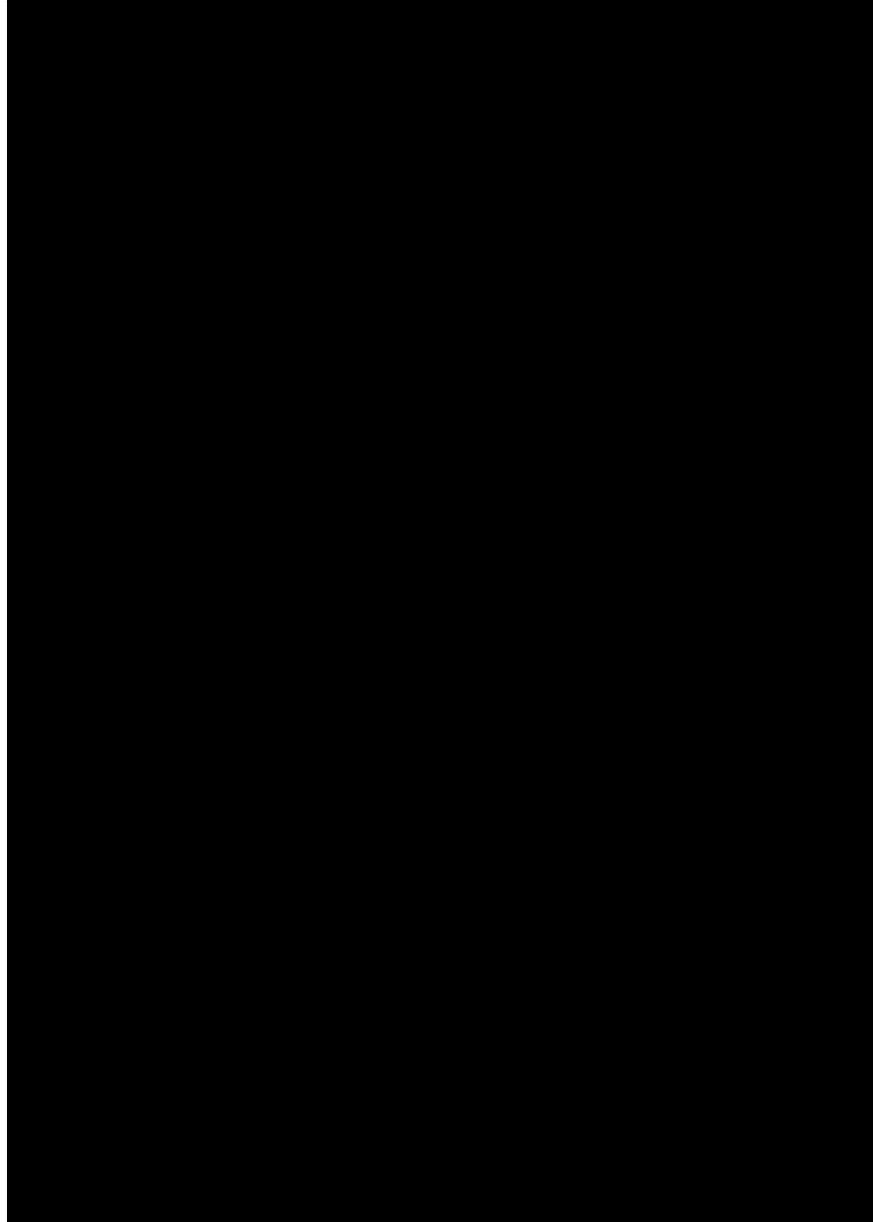


項目		修正方針
イ章		・Pu■■■■の収納限度を実輸送ベースに変更 [P.3参照]
口章A	A.5.1 熱的試験	・誤記修正(圧力の記載方法) ・B.4.4 最大内圧計算変更に伴う修正
	A.6.3.1 温度及び圧力の要約	・B.5.4 最大内圧計算変更に伴う修正 ・試験圧力に関する記載の修正 [P.4参照]
口章B	B.1.2 熱解析	・熱解析モデルに関する説明を追記 [P.5参照]
	B.4.4 最大内圧	・■■■■で行っていた評価を■■■■へ変更するとともに、水分およびプラスチック袋を除外して再評価
	B.5.4 最大内圧	・■■■■で行っていた評価を■■■■へ変更するとともに、水分およびプラスチック袋を除外して再評価
口章C	一般の試験条件	・構造解析の一般の試験条件下において輸送容器の密封装置は破損せず、健全性が保たれることから漏えいはない
	特別の試験条件	・圧力上昇法による評価を本文に記載(付属図書は削除)

項目		修正方針
口章D	D.2 線源仕様	・Puの収納限度を実輸送ベースに変更した線源仕様を設定し、再評価を行う [P.6参照]
	D.4 遮蔽評価	・本文中に一般の試験条件下における変形量による影響評価についての記載を追記 [P.6参照]
	D.6.1 D.6.2	付属書類削除
口章E	E.3 モデル仕様 E.3.1 解析モデル	収納缶を無視したモデルのみとする。(併せて図の修正) イ章と解析モデルのつながりを確認した上、モデル等の説明について下記項目等を追記 ・ ■■■■ 減少モデルについて参考文献 ・4クラスモデルについての説明 等
	E.4.4 計算結果	・収納缶なしの評価のみとする。
	E.7.3	(本モデルではU235 ■■■■ の球体を模擬しているため、Pu金属と同様の傾向を示す。) [P.7参照]
口章F		上記修正に伴い、記載を見直し

(イ)第 A.1 表 輸送容器に収納する核燃料物質等の仕様



A.6.3.1 温度及び圧力の要約

[略]

(2) 設計圧力

(口)章B.5.4 最大内圧で評価した結果、収納容器内圧は、PCV内圧は [REDACTED] である。特別の試験条件の下における応力評価では、受け入れ施設の基準に基づきPCVの圧力容器としての設計圧力 [REDACTED] 及びSCVの圧力容器としての設計圧力 [REDACTED] の約 [REDACTED] 倍の圧力 (PCVで [REDACTED]、SCVで [REDACTED]) を試験圧力として用いる。

B.1.2 熱解析

[略]

(4) 熱解析に用いた輸送容器概略及び収納物

■■■■輸送容器の概略図を(ロ)-第B.1図に示す。

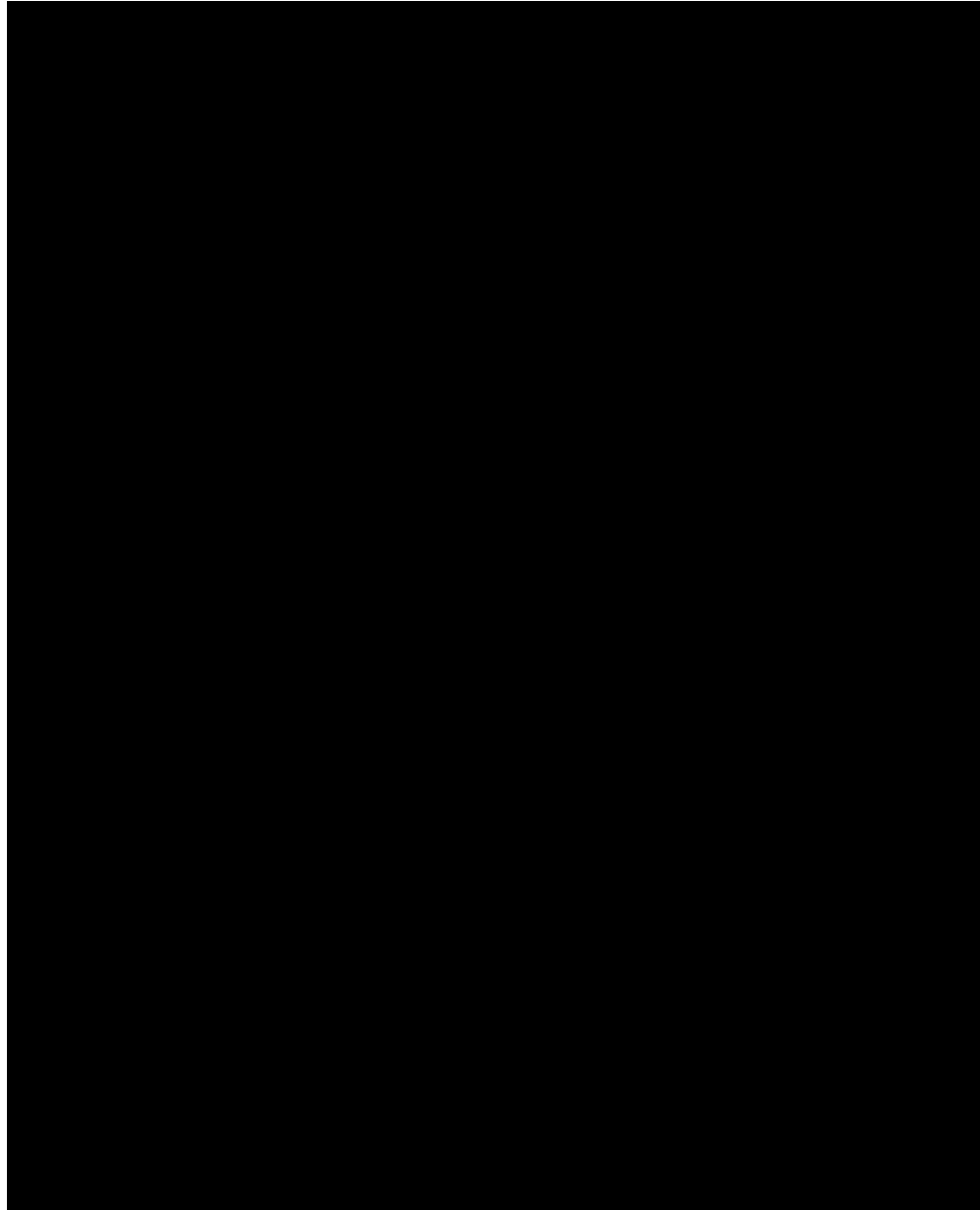
本輸送容器では、■■■■プルトニウム燃料及び■■■■ウラン燃料が収納されるが、(イ)-第A.1表に示すとおり■■■■ウラン燃料の発熱量は無視できるほど小さいため、■■■■プルトニウム燃料における評価を実施することで■■■■ウラン燃料を包含可能となる。

■■■■プルトニウム燃料は、(イ)-第D.1図及び(イ)-第D.2図に示すとおりステンレス製のホルダーに装荷された状態で収納される。このため、■■■■プルトニウム燃料を収納した場合、気体による熱伝達及び輻射による伝熱パスに比べ接触部における熱伝導が支配的となると考えられる。

このため、本解析では収納物からPCVへの熱伝導を高く評価するために、ホルダーはモデル化せず、■■■■プルトニウム燃料をボタン状の塊を2ヶ収納したものとする。この際、■■■■プルトニウム燃料の密度を■■■■ g/cm^3 、発熱量を最大崩壊熱である■■■■W相当とする。

ここで、PCV内の収納状況及び収納缶形状を(ロ)-第B.2図に示す。

一般の試験条件(側部表面)



本臨界評価では、Pu239 \square 球及びU235 \square 球モデルを用いて評価している。
このため、水が増加することにより K_{eff} が増加する商用炉とは異なり、
容器外の水が少ないほうが K_{eff} が高くなる傾向となる。

